

経済学会講演会の記録

経済学会は、2018年度講演会を以下のとおり開催しました。

日 時：2018年12月19日（水）13時10分～14時40分

場 所：名城公園キャンパス「明倫」

テーマ：最近のエネルギー事情

講 師：細野哲弘氏

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構理事長

中東調査会常任理事

（元経済産業省資源エネルギー庁長官）

〈概要〉

今年度の経済学会講演会は、石油天然ガス・金属鉱物資源機構理事長の細野哲弘氏を講師に招いて「最近のエネルギー事情」をテーマに講演していただきました。講演では、はじめに各種エネルギーの特性、化石燃料の開発方法やその世界埋蔵量などについて解説されたあと、日本のエネルギー政策の基本方針を「安全性・供給安定性・経済効率性・環境適合性」という4つの視点（S + 3E）から説明されました。そのうえで、日本におけるエネルギーの現状と今後の動向を展望し、エネルギー資源小国である日本がとるべき道は、各種エネルギー源の安定的確保を可能にする複数のオプションを準備しておくこと、特定のエネルギー源に過度に依存しない「エネルギーのベストミックス」を再構築することであると強調されました。

講演会は、その数日前に国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）が閉幕して今後の環境・エネルギー問題が大きな関心と呼んでいるさなかに開催され、時宜を得たものとなりました。講演のなかで細野氏は、経済産業省における政策立案・執行の豊かな経験をも踏まえて、これらの問題をめぐり多くの興味深い論点を提示されるとともに、将来に向けた重要な課題を提起されました。講演ののち参加学生との質疑応答が行われ、充実した講演会となりました。

講演会の終了後、経済学部教員との懇談の場が設けられ、和やかな雰囲気の中で講演内容について熱心な意見交換が行われました。そのなかで氏は、再生可能エネルギーは希望の星ではあるが、供給の安定性を確保するためにはバックアップとして化石燃料の有効利用が必要であること、その意味において、世界でもっとも高効率な燃焼技術を有する石炭火力発電には潜在的な可能性が存在すること、さらに地熱発電の拡大によってベースロード電源を安定的に確保すべきことなど、興味深い諸問題を指摘され、意義深い懇談の場となりました。（後藤記）

